

平成28年4月に障害者差別解消法がスタートして、共生社会に向けた動きが活発になってきているんだ。これまでに取材した人を繋ぐ意味で、「共生社会」や「ユニバーサル農業」(P5参照)をテーマとして、ミニ座談会を開催したんだ。一般社団法人Bridge代表理事の山口理貴氏、茂木グリーンファーム代表の茂木正行氏、社会福祉法人はくつる会理事長の諏訪守氏が参加してくれたよ。ここから新たに何かが生まれまれたらいいな。



写真

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけぬのあそんこまろ)
(大宝律令の選定に携わった
下野市ゆかりの人物)



ミニ座談会



座談会の 主な参加者紹介



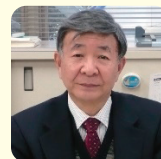
山口 理貴 氏

(一社) Bridge (ブリッジ) 代表理事、障がい者雇用コンサルティングのほか、古民家TSUBAKI YAのスペース運営・管理が主な業務 らいさま第6号参照



茂木 正行 氏

茂木グリーンファーム代表 各種野菜を生産 園芸福祉士の資格を持ち 独自の活動も行っている らいさま第10号参照



諏訪 守 氏

社会福祉法人はくつる会 理事長 農業と福祉をつなぐ事業を積極的に推進している

山口 わたしは、障がい者雇用をどのように進めたらよいか分からない法人の担当者にアドバイスをしたり、企業で働いている方の相談にもものっている。障がい者が社会に出る時に障がいを前面に出す必要はないというのが考え方の基本。例えば、趣味で絵を書いている知的障がいのある方は、障がい者としてではなく、一作家として社会に出てほしいと思う。下古山のかかしまつりに出品した「目玉おやじ」は病院デイケアや福祉施設のメンバーで作ったもの。障がい者の作品ということではなく、普通の出品者という扱いで社会と接するというを軸にしたい。

茂木 私は脱サラ後、就農しました。家族が自宅周辺にハーブ畑をつくり、障がい施設の利用者とラベンダーの花摘みなどの活動をしていたこともあり、農業と福祉に興味がありました。その後、2001年頃、東京農業大学の当時の学長であった進士先生が「花や野菜を育てて、みんな幸せに

なろう!」をキャッチフレーズにした園芸福祉普及協会を立ち上げられ、私も研修や講習会に参加し活動を始めました。また、イギリスやドイツでの海外研修や各地での活動に参加し勉強する機会があり、協会の認定講師などさせていただきました。現在は同じく協会の講習会を経て資格を取った仲間と「園芸福祉とちぎ」を立ち上げ、県主催のとちぎグリーンフェスタの協賛団体として園芸福祉の花壇づくりなどに参加させていただいています。今回のテーマの「共生社会」や「ユニバーサル農業」はこれまでの活動が活かせる場として、私も今後の農業経営に活かせるのではと思っています。ぜひ、進めていければと思いますね。

ミニ座談会の模様➡
会場協力(一社)Bridge



つながッテルね!

条例4条

(自治の基本理念)

市民が主役のまちづくりを推進することを基本理念とする。